

種名称 (学名)	タカサブロウ	参考文献：田んぼの草花指標（農と自然の研究所ほか）																																											
分布	北海道を除く全国																																												
日本名	高三郎																																												
主な地方名	セイタカソウ, シロキク, ウナギゴロシ																																												
中国名																																													
本種写真	生息環境写真	指標に挙げた理由	主な生育場所	大きさ	観察のポイント	類似種	見分け方	生態的な特徴	生活史 関東地方の例(目安)																																				
		指標区分：I (5), II (4), IV (2) 名前が目立ち、田んぼや大豆畑に生える。	水田・畦畔・休耕田	大きさ：30～60cm 種子・繁殖体の大きさ：1.7-3 (mm)	種子に翼のないアメリカタカサブロウがある。	アメリカタカサブロウ		湛水する田んぼに生える数少ないキク科の雑草。 【繁殖形態】種子繁殖。種子は灌漑水の流れにのったり、農機具に土壌とともに附着して散布。 【越冬形態】種子が湿った土壌中で越冬。 【訪花昆虫】 【植食昆虫】	<table border="1"> <tr> <td>1月</td><td>2月</td><td>3月</td><td>4月</td><td>5月</td><td>6月</td><td>7月</td><td>8月</td><td>9月</td><td>10月</td><td>11月</td><td>12月</td> </tr> <tr> <td></td><td></td><td></td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td><td>■</td> </tr> <tr> <td colspan="3">1年あたり</td> <td colspan="3">1</td> <td colspan="3">世代</td> <td colspan="3"></td> </tr> </table>	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月				■	■	■	■	■	■	■	■	■	1年あたり			1			世代					
1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月																																		
			■	■	■	■	■	■	■	■	■																																		
1年あたり			1			世代																																							
		農業との関係 大型の水田雑草として水稲作や転換畑作で嫌われる。 【許容範囲密度の目安と発生量の調査方法】水田内では3-18本/㎡以下であれば許容範囲。単位面積あたりの発生株数や被度調査、埋土種子量から発生量を把握する。	最近の動向 外来種のアメリカタカサブロウが水田内にも侵入しつつある。	つきあい方 よく田んぼでみかけるが、名前を知らない草の一つ。水田にはあっても良いと思う。	食用部位と調理法 新芽をゴマ和えや漬物にして食べる。あまりうまくはない。	薬用部位と効用 中国では全草を乾かしたものを墨草蓮と称して、出血性の病気に使う。	一言うんちく 昔、美男の「高三郎」の眼病を癒したことからその名が付いたという。	季節と旬																																					